

令和7年度第1回杉戸町環境審議会 会議録

日 時 令和7年7月31日（木）
場 所 杉戸町役場 第二庁舎 2階 第一第二会議室

会議録様式

審 議 会 名	令和7年度 第1回 杉戸町環境審議会
開 催 日 時	令和7年 7月31日（木）午前10：00～11：50
開 催 場 所	杉戸町役場 第二庁舎 2階 第1第2会議室
会 議 の 議 題	・第2次杉戸町環境基本計画実施状況報告について
公開・非公開の別	☒ 公開 ・ 非公開 （公開の場合傍聴者数 6人）
	（非公開の場合理由）
出席委員氏名	・蓮沼 弘行 委員 ・坂本 正博 委員 ・佐藤 杉弥 委員 ・戸賀崎邦雄 委員 ・吉倉 信広 委員 ・藤城 一巳 委員 ・平井 勝美 委員 ・木村 芳裕 委員 ・奥山あき子 委員 ・後藤 哲雄 委員 ・亀田 明憲 委員 ・小林 忠和 委員
説 明 者	・環境課長 張ヶ谷 正太郎 ・環境課主幹 青木 毅 ・環境課主査 斉藤 昭彦 ・環境課主任 木村 新市郎
事 務 局	・環境課長 張ヶ谷 正太郎 ・環境課主幹 青木 毅 ・環境課主査 斉藤 昭彦 ・環境課主任 木村 新市郎
審 議 の 概 要	・別紙のとおり

議事（１）第２次杉戸町環境基本計画実施状況報告について

- ・事務局より上記内容について説明した。

質 問

- ・事前に提出した別紙の質問について、説明をしてほしい。
- ・環境指標の実績について、最初の現況値からすると、ゴミの排出量が増えていたり、リサイクル率が下がっていたりなど、それはなぜそうなっているのか、どんな手を打ってきたのか。その方法が良かったのか、悪かったのかってような意見が出せない。どんな取り組みをしたのか。上昇したのだったら、なぜ上昇したのか。どんなことをしたら、結果が良くなって改善されたのかという方法を教えてもらわないと判断ができない。それから、二酸化炭素の排出量は、役場の中での取り組みによる結果ということですが、元々は率先実行計画なので、役場の中でこんなことをやってみたらこれだけ減らせたので、ぜひ町民の皆さんもやってくださいというように活用していくのが目的だと思う。そうであれば、これだけ減少したのだから、こういうことをまず町民にも、事業者たちにも知らせたいなど。役場でやったらこれだけ減少することができるというようなことを書き込んでもらわないと、何とも言いようがない。それから目標に対して、平成 25 年から令和 12 年までの間ですけど、既に 3 分の 2 が過ぎている。基準値から比べると 3 分の 2 程度、減らせてなきゃいけない。しかしながら、実際に計算すると、そこもいってないということで、ではどんなことをやってきたのかというところの説明を聞きたい。

回 答

- ・まず生活排水処理率につきましては下水道区域については、担当課において接続率の向上に努めています。
- また、それ以外の区域においては、HP 等により、浄化槽の維持管理について周知を図ったほか、汲み取り便槽や単独浄化槽から合併浄化槽への転換に対して補助金の交付を実施しました。
- 次に、生物化学的酸素要求量で測定結果についてです。
- こちらの数値につきましては県等の関係機関の調査・報告書の数値を採用しているため、詳細な原因は特定できませんが、生活排水の流入や、豪雨等により大量の雨水が流れ込むなど、いくつかの原因が考えられます。
- 指標 No.4 につきましても同上。続きまして、町民 1 人当たりのゴミの排出量こちらにつきましては先ほど説明したように、剪定枝粉碎機の貸し出しや、生ごみ処理機等購入費補助金事業、ごみカレンダー、ごみ分別一覧表の更新による啓発活動の結果、全体の収集量が減少傾向にあるためと考えられます。なお、ゴミの排出量は世帯ごとに排出されることが多く、人口は減少しているものの、世帯数は増加傾向のため大きな減少が見込めない状況です。
- 続きましてゴミのリサイクル率につきましては子ども会をはじめとした資源回収団体の減少に伴い、資源回収量が減少したことや、家庭収集における資源ごみの排出が減少したためと考えています。また、令和 2 年度以降のコロナ禍による粗大・不燃ごみの排出増加が続いていることによって、廃棄物全体における資源ご

みの割合が減少したためと考えられます。

最後の杉戸町の温室効果ガスの排出量につきましては、数値については、2024年の「埼玉県県内市町村温室効果ガス排出量算定報告書」から引用しているため、具体的な原因はわかりませんが、杉戸町のデータを見ますと、電力需要ではわずかな減少がみられるものの、燃料需要の運輸分門での増加が大きい状況です。続きまして、各種取り組みに対する回答になります。

一番上から情報提供できなかった取り組みではありましたが、担当課での評価になりますので、ご理解いただきたいと思います。次に、貸出地区は主にどこで、樹木の有無でも需要が違うのではということに対して、貸出件数 29 件については、全て個人になります。個人宅内のため、敷地内に樹木の有る個人の使用が主です。

続きまして、A、B あるが、数値目標を設定したか、判断基準はというところですが、一番上の 6-6-1 こちらについては桜井排水機場の維持管理や、農業委員や耕作者からの要望等により修繕を行っているので数値目標は特にありません。その下の 7-7-1 特に数値目標は設定していませんが、安定した出荷ができております。その下の 8-8-1 こちらにつきましては第 6 次総合振興計画にて、毎年 1 団体の増を目標としているところでございます。令和 6 年度については、1 団体増加で 1 団体の減により合計 9 団体となっております。

続きましてその下の農業祭への PR でいいのかについては、農業祭での PR のほか、杉戸農産物利用店の認定により PR を実施しています。

その下の民間の取り組みへの評価は、こちらについてはアグリパークの収穫体験などにより評価したと考えております。

その下の 13-2 件数が少ない。メリットが小さいのではないかと。手続きも煩雑につきましては、昨年度から、始まった取組であることから、今後も引続き住民への周知等を含めて継続していければと考えております。

その下の 14-2 どんな箇所があるか検討は、こちらは歩道部分への設置を検討しましたが、詳細については今後の計画の中で決定していきます。

その下の 15-2 生垣維持のための補助、例えば、回収袋の無料化など、こちらにはについては住宅地に新たに生垣を設置する工事に対しての生垣設置奨励補助制度であることから、回収袋の無料化等は考えておりません。

その下の 25-2

杉戸町ではなぜ継続できなかったのか。生き物調査は杉戸町の生態系保護に役立てたのか。については、現時点で、生き物調査については、具体的な実績がないことから評価を C としております。

その下の農業高校、カルスタだけで生態系は守れるのか。南側用水路上流部の開渠部、下野の森等にも多様な生物がいる。こちらにつきましては環境基本計画では、生涯学習センター等の教育関連を位置付けており、維持管理に努めたところ です。

その下につきましても同上となっております。

続きまして 45-3 住民から要望があって指導するのか。については、合併浄化槽に

対しての法定検査については、埼玉県浄化槽協会が実施しておりますので、町は適正な PR に努めております。

54-4 なぜ B なのか。

こちらにつきましては現状把握のみとなり具体的な実績がないので B 評価としました。

その下の 70-5 調査の結果がどうだったのか。好ましい電力が結論出来たのなら公表し普及すべきではないか。については情報収集の段階であることから、結論には至っておりません。

続きまして 77-5 検討結果はどうだったか。可能性は

こちらに関しては次世代自動車（E V）について情報収集・検討を行ったが、充電の持続時間や運行時間中に充電する時間帯が必要になる等の課題があることから、当面の導入は見合せ、技術革新等の状況を注視するとのことです。

続きまして 81-5 高野台団地内の歩道の段差が大きい改善を求める声もこちらについてはご意見としてお伺いします。

続きまして 85-5 温暖化の緩和策として最も効果の大きい、再エネの促進の啓発も取り組むべきでは。については、住宅用エネルギーシステム設置補助金を交付し、導入促進を図っているところでございます。

続きまして 110-6 宮代町のこどもエコクラブ、エコスターズはさまざまな取り組みをしていて全国でも何度も表彰されている。参考になるのでは。についてはご意見として参考とさせていただきます。

最後に率先実行計画の関係ですが、こちらにつきましては町(役場等) が自らの事務事業から発生する温室効果ガス排出量の削減についてでございます。計画期間は、令和 6 年度から令和 12 年度までの 7 年間でありますので、今後も、目標値の達成に向け、対策を推進していくことになります。

- ・温暖化対策の関係でありますけれども、こちらにあります通り、基本的に役場で使っている電力であるとか、重油等の燃料。こちらの使用量を基本に算定している状況でございます。排出係数とかがありますけれども、基本的には電気とか燃料を減らす方向で役場が取組を行っております。日常的に電気等の消灯やなるべく残業しないとか、個々の取り組みにはなっていますが、なかなかこういう暑さなどもある中で電力について減少はしているのですが、大きな減少はない状況となっています。さらに役場は様々な出先機関を抱えておりますので、特に環境課であれば、環境センターは電力をかなり消費する状況となっております。そちらの方も何か方策がないかと考えるのですが、なかなか具体的などころがないのが現状ではあります。なるべく日常業務の取り組みから減らしていくというのが現実的でございます。ガソリン等の燃料につきましても、特に車の関係が多くなっており、なるべく電車を利用することを進めておりますが、職員が町内を業務で周っておりますので、燃料もなかなか減らせないということです。特に環境センターでは重油等も使用しておりますのでこちらの方も減少が見込めない状況です。先ほどおっしゃったように本来であればもっと 3 分の 1 減少というのが理想ですけども、大きな減少は見込めない状況になっております。ただ実際に、例え

ば紙を削減するなど。ここに算定対象になっていないものもやっていますので、そういうものを本来は算定できればいいのですが、計画上はここにのっている、ガスや電気や燃料になっていますので、正直、住民の方に PR できるような役場の取組はしてないということです。やはり日常、消灯するとか、あまり電気を使わない、車を使わないということの積み重ねになってしまう。これからまだ期間がありますけども、なるべく効果が上がるような方法をとっていきたいというふうに思います。照明につきましては、役場も LED に変わったとか、そういうものがありますので、今後効果としては若干でありますけれども、現れてくると思います。照明につきましては蛍光灯もなくなってしまうという現状もありますので、今後、各公共施設の方で実際に進めば、電気量としては効果が出てくるものと考えています。先ほど説明があったように、役場でいろいろな取組をやっておりますが、それを住民の方に周知するような取組や事業は現状ない状況となっています。

意見・電気について大手の電力会社から買うと、どうしても火力発電であるとか、二酸化炭素を排出する電力を使うことになってしまう。それを再エネ由来の電力に切り替えるということをやれば、役場の中で使う、家庭でもそうですけども、そういう電力からは二酸化炭素が発生しないっていうことになるので、そのようなことも考えられたらどうかということで、提案していきたいと思う

回答・確かに様々な電力がありますので、参考とさせていただきます。環境センターでいいますと安定供給というのも重要なので、そこは安定供給と再エネ由来のバランスを見ながら検討していきたいと思います。

意見・評価の仕方について、B 評価や C 評価になった原因や問題点、反省点を記載していただきたいと思う。

回答・今おっしゃられた改善点等について、結果を踏まえて今後どうするかということを書き記述するような形で、また令和 7 年度の評価についてはそういった内容を記述するように各課と検討していきます。

質問・それに関連してなんですけども、A、B、C の評価基準ってというのは誰がどういう基準で評価しているのか。

回答・A については、取組内容の達成状況が 70% 以上、又は事業完了。B については取組内容の達成状況が 40%～70% 未満。C については取組内容の達成状況が 10%～40% 未満。D については取組内容について未実施、又は実施したが効果現れず停滞など達成状況が 10% 未満となっております。

質問・生活排水処理率について、環境指標の実績の R6 の評価は×となっているが、詳細の施策の取組状況をみると、A 評価となっている。これは両極端となっていて整合性が取れていないのでは。また、生活排水処理計画の担当課は環境課となっているが、杉戸町の場合の下水道の利用者の割合がその他より多いので、担当課

は上下水道課ではないのか。

回 答・生活排水処理率につきましては、下水道も含めた数字になっており、最終的な目標は 100%で、そこに達していないということで×となっています。基本的に浄化槽については環境課で補助を出しているが、下水道については上下水道課の方で所管をしております。

生活排水処理計画につきましては一体となっており、基本的に環境課の方で上下水道課と合同で策定している状況です。

こちらにつきましては下水道区域を含めて、町全体の排水処理について計画をしております。下水道区域については下水道につないでいただき、それ以外のところは可能な限り合併浄化槽を入れていただくということで、取り組んでいるもののなので、個々の取り組みにつきましては各課の努力によって、多少なりとも処理率が上がっているということで評価をさせていただいてます。

ただ結果、最終目標 100%にまで増えてないということで、単純に数値で判断という形をとらせていただいております。

意 見・環境指標の実績のところ、河川の BOD のところが、上がっているというのは原因を究明したほうがいいのかなと思う。

意 見・資料に関して全体的に数値が多く、単年度同士の比較や、経年的な結果みたいなものが何もないので、これに向かって削減しなければいけないものについては、グラフをつける等したほうが良い。また、住民にもわかりやすくするため、例えばデータの活用がまだ不十分で、先ほども数値を出すだけではなくて、原因をわかるようにしなければということで。例えば資料の 2 ページの横長の表の施策の取組状況について、A、B 等の評価について、例えば A は 4 点、B は 3 点というふうにし、平均点をとってしてみると、取組方針で一番スコアが低いのが 3-2、4-1、それから 7-1 となっており、平均を割っているところとなるわけです。さらに、1 番上の段落で、環境目標のところを見ると、循環型社会の形成と脱炭素社会の実現というのが、スコアが 3 点とギリギリ B に引っかかってくるぐらいなので、そのようなところについて、重点的に原因を探して、取り組んでいただくといいのかなと思う。

それからデータとしてはですね。率先実行計画の後半のほうには、非常に詳細な資料がついてますので、これをどう活かしていくか。率先実行計画の 20 ページを見ていただくと、町全体の排出量があり、その下に棒グラフがあるが、2013、2022、2030 とあり、2022 から 2030 には、グッと減らさなければいけないはずだが、そこまでのロードマップが出てきてない。例えば県の条例で温対法でみると、今年度から最終の第 4 次計画に入っており、もう後がない状況です。よって、私共の大学ではそれを踏まえて、PPA を導入するなどの方策を取って、やっとなどが立つかなというぐらいのところまで来ている。つまり、町長の諮問を受けてやっているため、町長に対してですけども、カーボンニュートラル宣言を、町長

の名前でしているのです、2030 年に向けた行政のロードマップが示されていないというところがありますので、それについては、現状のデータを見える化して、進捗を測ったうえで何かしらの対策を練らないと、到底間に合わない状況だと思う。

回 答・資料に関しては、今回グラフ等がなく大変見づらい部分がありますので、改善していきたいと考えております。またこれまでの実績等については、今後データを見える化していきながら、過去を含めて、そういったものがあればお示ししていければと思います。また、排出量については、係数が変わったりするのもあり非常に複雑な計算をしていますので、なるべくわかりやすい数字を出せればと考えております。排出量の減少について、特に温暖化であるとか脱炭素については、何か方策がないかなと考えていますが、評価の中で、どのように取り組めるかということは今年度の結果を検証するときに、検討していきたいと考えております。私達もなかなかわからないことが多く、勉強しながら取り組んでおりますので、なるべくわかりやすいデータ活用をするなど、計画達成できるためのロードマップを作成していけるように、検討したいと思います。実際に PPA や LED なども、以前に検討はしましたが、取り組みがまだできていない状況でございます。今回のようなご意見が出てますので、それは町としても受け止めさせていただいて、取り組みを加速できるような形で考えていきたいと思います。ご意見ありがとうございます

質 問・評価については、担当課がつけているのか。環境課がつけているのか。

回 答・まず、担当課が評価をつけており、その後、町長や副町長、また各課長が属している環境管理委員会にて、評価の内容等を全て諮りまして、ご意見をいただき、環境審議会のほうに諮問をするということで確認を取っております。

意 見・担当課は担当課でやるべき仕事があり、環境課が環境という視点で評価するべきである。

意 見・これまでの質疑の中で、こどもエコクラブの設立が難しいようなことがあったが、確かに少子化で子供会が少なくなっているが、先進事例である宮代も少子化であることは変わらない宮代が成功されているのに、杉戸はどんな取り組みをしているのだろうと思った。今回の昨日津波で子供たちが一生懸命に避難訓練をしていたから、子供たちの行動が素早かった。そうするとやはりこれからの子供たちに期待しなきゃいけないことって多くあると思うので、こういった子供からの教育をやってほしい

回 答・確かにこの部分はなかなか進んでいない状況です。結果のほうでも、去年、実施したことについては、情報収集のみとなっているところでございます。ご意見の中で、お子さんたちに対する教育への課題として、啓発や情報提供を増やしていければと思います。しかしながら、この計画そのものが非常に細かい取り組みが入っています。例えば、「子供への教育」という取組であれば、様々な検討ができ

ますが、「こどもエコクラブの設立」というのは、計画策定時には良い取組だと思ったものの、実際に実施することが難しいところでございます。先ほど、ご意見がありましたけれども、資料に書かれていることを実施することも重要ですが、それだけにとらわれることなく、様々な取組をやっていかなければならないと思っています。環境への取り組みというのは、町だけでなく、個々の取組が非常に大きいと思っています。その積み上げにより、カーボンも減りますし、行政だけでなく、町全体で取り組んでいかなければいけないと考えており、様々な取組を、何かの方法で提示させていただきたいと思っています。